

虚子記念文学館投句特選句

・令和五年四月

稲畑廣太郎 選

植ゑしあり吉野桜の苗木濡れ

新潟 安原 葉

咲き満ちて洛中洛外花万朶

京都 西村やすし

潮匂ふとぎに夏めく芦屋川

兵庫 藤井啓子

夕暮れて日永の鍬を洗ひけり

兵庫 小杉伸一路

野に影を置かぬ舞ひやう蝶遊ぶ

東京 荒川ともゑ

初花の解く光の生まれたて

奈良 河村久美子

花に逢ひ人に別れといふ刹那

兵庫 岩水ひとみ

散る花の褥となりて水面映ゆ

兵庫 金田八江子

春風や師の言の葉の満つ館

神奈川 進藤剛至

夏近し湖面に高く虚子の句碑

兵庫 太平楽太郎

入選句・令和五年四月

| | | | | | |
|-------------------|----|-------|-----------------|-----|-------|
| くぎ煮炊き叶はぬ不漁海臈 | 兵庫 | 山之口倫子 | 朧月大きく見せてゐる静寂 | 兵庫 | 山口弘子 |
| 汀子師の庭の桜を慈しむ | 大阪 | 窪田由紀子 | 新しき街新しき花並木 | 兵庫 | 高野さち |
| 千の手を伸べて仏は春愁 | 大阪 | 若林友子 | 俳磚へ石の磴ゆく花の冷 | 兵庫 | 中村恵美 |
| 大琵琶は光の埧塙あたたかし | 石川 | 村上秀吾 | 春眠の夢キラリ大道をゆく | 大阪 | 櫻淵桜陽子 |
| 灯籠脇白を極めて白椿 | 岡山 | 小幡恒雄 | 潮風の待合室や燕来る | 香川 | 葛原由起 |
| 距離を超え時間を超えて恋臈 | 三重 | 松村咲子 | 春ごたつ片づけられてしまひけり | 香川 | 奥村 里 |
| 賜りし遺愛の色紙蝶の昼 | 兵庫 | 森岡喜恵子 | 花の館心の恙とかしけり | 大阪 | 林 曜子 |
| 寄りても見離れても見て桜かな | 三重 | 池本準一 | 荃立の渦吊上げてゐる日射し | 大阪 | 河辺さち子 |
| 旅立ちは素顔で歌ふ卒業歌 | 兵庫 | 上岡あきら | 暖かや昨日と明日を繋ぐ今日 | 大阪 | 須知香代子 |
| 愛馬にも別れを告げて卒業す | 大阪 | 立入宮子 | 虚子館に母の句さがす春日和 | 神奈川 | 高橋征夫 |
| 黄泉の国隔つ亀石影おぼろ | 大阪 | 大橋明子 | 春昼に絡め取られてしまひけり | 兵庫 | 池田文子 |
| 鳥の来て花の奈落に溺れけり | 奈良 | 山口廣世 | 句縁に四方八方花の旅 | 石川 | 赤島磨智子 |
| 香を沈め音を鎮めて春の雨 | 大阪 | 杉山千恵子 | 春塵のうすら積もりて鳥の子色 | 埼玉 | サトサナ |
| 山稜に透くる枝々山笑ふ | 兵庫 | 宮本露子 | 草餅を持ちて初瀬を下りけり | 奈良 | 豚々舎休庵 |
| ようこそその声に招かれ花の庭 | 兵庫 | 小柴智子 | 葉桜よ母の面影さがしてゐる | 三重 | 水越晴子 |
| 芦屋川人出行き交ふ花日和 | 兵庫 | 黒田千賀子 | 轉れば老いの同時に見上げけり | 奈良 | 堀ノ内和夫 |
| 朧夜のロマネの底に沈む澱 | 兵庫 | 池田雅かず | 行く春や虚子記念館に浸りし日 | 埼玉 | 根岸光子 |
| 対岸に手燭の揺らぎ朧の夜 | 兵庫 | 塚本武州 | 極楽の世界日々ある白寿春 | 大阪 | 田島竹四 |
| 吉野より届く桜と聞くにつけ | 兵庫 | 玉手のり子 | 朧夜の帳に残る子らの声 | 大阪 | 田邊育子 |
| 三椏の花のふくらむ良き日和 | 東京 | 田口美和子 | 虚子ならば崩るる牡丹いかに詠む | 大阪 | 田島もり |
| 友の死を知らされず来て月朧 | 兵庫 | 南波喜久子 | 東にふんはりと月春ゆふべ | 兵庫 | 二瓶美奈子 |
| 丹波焼皿にどしりと草の餅 | 兵庫 | 高橋純子 | 六甲を半分消して霾れる | 大阪 | 石橋玲子 |
| 野立して草餅の客もてなさん | 鳥取 | 前田 千 | 花の旅北へ北へと特急車 | 兵庫 | 西村みどり |
| 宗谷まで長き铁路や水芭蕉 | 石川 | 辰巳葉流 | 汀子師の面影しのび蘭の花 | 大阪 | 村田差久子 |
| 麗かや句会の果てて雑談に | 兵庫 | 辻田あづき | 残りたる並木の牡丹桜かな | 兵庫 | 川村ひろみ |
| 柳揺るみそ一文字の雅かな | 兵庫 | 柳生清秀 | 亀鳴くを聞きたく俳句つづけをり | 奈良 | 芳林淳子 |
| 目覚めれば蝌蚪飛び跳ねる居間となる | 兵庫 | 大西美知子 | 若鮎の柔らかき苦味嗚呼とでる | 神奈川 | 齋藤苑子 |
| キャンデーに笑みのお礼や花の昼 | 兵庫 | 齊木富子 | 水草の広がる水面惜春忌 | 愛知 | 小野 薫 |
| | | | 千二百愛宕羅漢に春しぐれ | 兵庫 | 福田光博 |

| | | | | | |
|-------------------|-----|---------------|-----------------|-----|---------------|
| 啄木忌我立つ砂の惑星に | 兵庫 | 月あんぬ | 三楹の香りを当てり二人して | 神奈川 | 小林 心 |
| 風光る虚子句碑光る石像寺 | 京都 | 杉森大介 | 波音に和して苫屋へ春驟雨 | 和歌山 | 中島紀生 |
| さとやまの捨家に暮らす夏木かな | 千葉 | 山崎寿仁 | 花は葉となりて素顔の芹屋川 | 兵庫 | 田村惠津子 |
| 藩邸の在し名やな花筏 | 兵庫 | 足立朱麻 | 春雨や木々おくひびく鳥の声 | 兵庫 | 福田 涼 |
| 亀鳴くやなかなか解せぬパズルの夜 | 兵庫 | 山崎渺美 | 亀鳴くや二合半の酒持て余す | 兵庫 | 阿曾宏之 (青少年) |
| 昨夜雨に桜薬降る庭となる | 兵庫 | 入谷千恵子 | 蝌蚪の國一步にまたぐ児のズック | 神奈川 | 小堀公美子 |
| 子の逝去まぼろしならず花月夜 | 兵庫 | ほりもとちか | 法善寺不動の祈り水温む | 東京 | 宮村土々 |
| お花見の出来たる母の白寿かな | 兵庫 | 山口弘子 | | | |
| ライラック小雨の館を装ひぬ | 兵庫 | 山岸正子 | | | |
| 龍一逝く桜薬降りやまぬかな | 兵庫 | 伊藤秀子 | | | |
| 飛花落花黒き大地に色移し | 兵庫 | 上田光子 | | | |
| ぼうたんの占めたる位置のゆるぎなし | 兵庫 | 金延峰子 | | | |
| 花を詠み一句残せと教へられ | 兵庫 | 岡本やすし | | | |
| 地下鉄を上げれば外は花吹雪 | 兵庫 | 道中義一 | | | |
| シェフ一人切り盛りしたる花の昼 | 兵庫 | 吉村玲子 | | | |
| 霽れてゆく御室仁和寺花は葉に | 兵庫 | 永沢達明 | | | |
| お弁当開けてうららか畝傍山 | 兵庫 | 奥田好子 | | | |
| 鉄橋を貨車埋め尽くしたる日永 | 兵庫 | 高市敦之 | | | |
| 春秋やふと吸ひ込まる映画館 | 兵庫 | 惠島祥一朗 | | | |
| 境内に梅花黄連美しき白 | 滋賀 | 近江堇花 | | | |
| さりさりとこの字におろす山葵かな | 兵庫 | 武田奈々 (青少年) | | | |
| しろがねの水に山葵の色生るる | 兵庫 | 武田優子 | | | |
| 寿福寺へ未だ行けずに能登虚子忌 | 石川 | 宮下末子 | | | |
| 夙川の鼓動となりぬ穀雨かな | 兵庫 | 伊集院秀樹 | | | |
| 駕輿丁舟のぐいと下がれり春の川 | 兵庫 | キートスばんじょうし | | | |
| 満天星の音なき音や万の鈴 | 石川 | 伊東弥太郎 | | | |
| のどけしやタイヤ交換したる午後 | 石川 | 辰巳昌彦 | | | |
| これよりも孤独になれぬ石鹼玉 | 埼玉 | 土井洋子 | | | |
| 額に受く藤の色香の零るるを | 神奈川 | 金子三奈乃 | | | |